

BiG-i Communication Paper

The title of our information paper "i-co" is pronounced the same as the Japanese word "aiko," which means here an equal relationship where no one wins or loses. The purpose of this free paper is to offer useful information for everyone, with and without disabilities, with the motto of "Sharing and Caring."

2015

October

vol. 20

「あいこ」は、勝ちも負けもない対等な関係を表す言葉です。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信します。



i-feature

ビッグ・アイのエントランスを飾るウェルカムアートが完成しました。

うきうき、わくわくの思いに満ちたこのタペストリーは、どのようにしてつくられたのか？

二日間にわたり開催されたビッグ・アイ アートキャンプの過程をご紹介します。

ビッグ・アイアートキャンプ2015(子どもゆめ基金助成活動)

日 時:2015年8月15日(土)13:00~8月16日(日)16:30

会 場:国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)

講 師:水野 浩世(ユウの家 絵画講師)、原 千草(ものをつくることのこと。造形作家)、
日垣 雄一(YELLOW)、上田 哲郎(アートスペース歪蛮人)

参加者:子ども15名、大人17名

主 催:共に生きる地域の“絆”プロジェクト委員会

たのしいをさがして

暑さも盛りの7月25日、ビッグ・アイでアートキャンプに向けた打合せが行われました。この日集まったのは、アートキャンプで講師を務める4人。ユウの家で絵画講師を務める水野浩世(みずの ひろよ)さんと、株式会社YELLOW(イエロー)の代表、日垣雄一(ひがき ゆういち)さん。造形作家の原千草(はらちぐさ)さんに、なぜか麦わら帽子に長ぐつという潮干狩り姿でやってきた上田哲郎(うへだ てつろう)さんです。障がい者福祉に関わりがあったりなかったり、アートとの関わり方もそれぞれに違うこの4人。いつもは違う活動をしている人々が、その力を掛けあわせた時、どんなワークショップが生まれるのか。これも一つのうきうき、わくわくする試みです。

ビッグ・アイから講師4人へのオファーはシンプル。

エントランスに飾るタペストリーをみんなで作りたいということ。何を描くのか、どんな方法で作るのかは講師のアイデアにゆだねられます。

タペストリーの生地となる3m×1.5mの布を広げて見ながら、まずは思い思いに口を開きます。

「机の上で描くのがいいのか、地べたで描くか…？車いすの方はどうしますか？」

「一つの布にみんなで描くか、別々につくったものを

つなぐのか…？大きな布への最初の一筆って結構？レッスンじゃない？」

「一日目は下地づくりにしましょうか。あきるかな？時間は大丈夫？どうせなら二日目は乾かして吊るして記念撮影までしたいですね」

「何を描くか…大きなテーマって何ですか？」

課題がたくさんありすぎて、話の方向はあっちへ行ったりこっちへ行ったり。

(次頁へつづく)





「いろんな画材を使ったら、すっごくカラフルなのが
できますよね。せっかくこれだけおっきな布に描ける
んだから、一人ひとりのスペースで描くんじゃなくて、
動き回りながらパーツと描けるほうが楽しいですよ」と
言う原さんの言葉に水野さんが答えます。

「決まりごとがあってもいいんじゃないですか？必ず
これとこれを使いましょうみたいな。これをしたら
次はビー玉に絵の具をつけて転がしてみましようか
か」「お父さんの顔拓とか…」と日垣さん。思わぬ
おもしろアイデアに笑いがわき起こります。

「最初から(タペストリーになる)布だけわたして
しまうと、絵をその中に収めようとしてしまうかも
しれないよね。ふちができてしまうのは…おもしろく
なくなるかも。模造紙を敷き詰めてその上で描くと
か…」と上田さん。自分の意見を述べながら、「何
か全然違う案はない？」とまとまりかけた案をかき
回します。

「例えば立体というような考え方はない？くしゃ
くしゃにしたり、障害物をいれて…でこぼこのある
キャンバスに描いてみるとか…」

一人ひとりの視点は違いますが、それぞれに
「どうしたら楽しんでもらえるか」を考えていること
がわかります。

話が一段落すると、再び「テーマ」の問題が浮
上ります。結局何を描くのか？

「鈴木さんはどんなのをイメージしていますか？」
と尋ねる水野さんにビッグ・アイの事業プロデュー
サーである鈴木が答えます。

「大きな絵を描こうっていうワークショップは何
回かやったことはあるんですよ。自由に描いてい
いよってなると、ぬりつぶす作業になる場合が多
くて、絵の具の中で泳ぐ子がいたり…。だから今、
それとは違ったアイデアが出るから、おもしろい
なって思ってるんです」

その言葉を頭の中で繰り返しかみくだくよう
な表情を浮かべながら、水野さんは言葉を重
ねます。



「私も何かそういうものじゃないのがいいなと
思ってた…、自分がここ描いたよってことがわかる
ほうがいいなと思うんです」

そんな水野さんの想いととも、さらに議論は
続きます。子どもたちの個性を大切にしながらも、
それぞれが協力しないとできない作品を。作品づ
くりの不確実性を加えながら、なおかつ作品とし
ての完成度は高く、そして、何より楽しく。

長い時間、同じ作業ばかりでは疲れるから、ゆ
るく創作をじゃまするようなゲーム性がほしいと
考える水野さん。

「15分か20分に1回、何かしなければいけな
いとか…」という言葉に日垣さんが答えます。

「ヅラだったらありますよ、YELLOWに」

「いいですね！ヅラ交換しましょう。時間がきた
ら絵の具とヅラを交換しないといけない」

そのまま誰もツッコミをいれることもなく、ヅラ
交換が即決されるという一幕もありつつ、午後
1時から始まった打合せは、夕方5時になるまで
続けられました。最後に、会場の下見と足りない
備品を確認。ビッグ・アイのスタッフには、参加す
る家族分のカツラを用意するという重大な使命が
与えられました。

じぶんのいろで

8月15日、ビッグ・アイには講師の4人とビッグ・
アイのスタッフ、ビッグ・アイ サポーターのみなさん
に、学生ボランティアさん。そして、いっしょにタ
ペストリーをつくる14組の家族が集まりました。
年齢も住むところもみんなバラバラです。

会場には、ブルーシートの上に敷き詰められた
模造紙と、その上にランダムに配された3枚の布。
布の下には障害物が隠されていて、ポコポコと波
打っています。いったい何が始まるのかというワ
クワク感に、子どもたちは今か今かと始まりの時を
待ちます。

この日の進行役は上田さん。頭にかぶった殿さ
まカツラが威厳をそえます。まずはあいさつをと
いうところですが、コミカルなその姿に反して表情
には少し緊張の色。ちゃんと楽しんでくれるかなと
いう不安でもあるのでしょうか？前置きは簡潔に、
さっそくワークショップを始めることになりました。

最初に手渡されたのは、絵の具の入ったバケ
ツと筆、針金でつくられた輪っか、そしてヅラ。子

どもたちは、布の下に隠された障害物が何かを想
像しながら、布や模造紙の上に置いた輪っかの中
をぬり始めます。何を描いてもいいと言われても、
何を描けばいいのかわからない。そんな不自由な
「自由」に「輪っかの中を」という少しの制限を加え
ることで、最初の一筆へのとっかかりを与えます。

ほどなく、真っ白だったキャンバスに色とりどりの
輪が浮かび上がりました。子どもたちは手足を
絵の具に染めながら、輪の中をそれぞれのアイデ
アで満たしていきます。いきいきと自分を表現す
る子どもたちの姿に、周囲の緊張もほどけていくよ
うです。もちろんヅラも大活躍。子どもたちにとっ
てはヅラ選択も重要課題。次から次へと絵の具の
交換に来る子どもたちに講師もスタッフも大わら
わ。ひとまず休憩の声がかかっても、子どもたち
は止まりません。

休憩の後は、ビー玉を使います。ここからの進
行役は上田さんから水野さんに。進行役の証であ
る殿さまカツラも受け渡されます。説明を始めた



チカラをあわせて

二日目の朝、ワークショップの会場には模造紙から取り外された3枚の布が並べられています。会場に集まった参加者から「すごい!」「こんなふうになるなんて…」といった言葉が聞こえます。昨日それぞれのアイデアで描き上げたものを下地に、今日はみんなで力を合わせて三連のタペストリーとして完成させなければなりません。

タペストリーに描くのは大きな「木」。まずは幹と枝からというところですが、ここにもひと工夫を加えます。3枚の布の真ん中に立った上田さんが、子どもたちに呼びかけます。

「布の中には“ひげ”が隠されています。一人一つずつひげを見つけたら、指で押さえてください」

どこどこと探す子どもたち。なかなか見つからない子を他の子がそっとフォローします。みんな見つかったところで茶系の絵の具をつけた筆が手渡されます。

「それでは、ひげの所から先生の方に向かって、線を伸ばしてください」と上田さん。

恐る恐る筆を入れ始める子どもたちですが、「もっともっと」という上田さんの誘導に、筆がはしり始めます。子どもたちの次はお父さん、お母さんが子どもの描いた枝に枝をつないでいきます。ひと筆、ふた筆と重ねていくたびに、だんだん太く枝は広がり、大きな幹へとつながっていきました。

幹と枝の次は葉っぱというところですが、絵の具が乾くまでの時間を使って、講師の4人からみんなへのサプライズプレゼントがありました。なんと取り外した模造紙の中からおもしろくてきれいな部分を切り取って、カードに仕立てたというのです。花火が終わった後、夜遅くまで原さんを中心に講師4人で作ったというカード。参加者の驚きはもちろんのこと、これはビッグ・アイのスタッフにとっても思わぬプレゼントとなりました。

休憩をはさんで仕上げの葉っぱです。ポスカにクレヨン、クーピーペンシル。用意された画材の中から好きな色を選んで、両手両足から型をとったみんなの葉っぱを描き入れていきます。あちら

の枝に、こちらの枝に、布の上を動き回る子どもたち。葉っぱの中には好きなものを描き込みます。

「25.5cmやで!」という声に「25.5cmのシンデレラや!」と返す声。「いいね!」「いい感じ!」という声が会場内に響きます。子どもも大人もサポーターもスタッフも、みんなが葉っぱを描き入れて、タペストリーは完成しました。大きく広がった枝には、色も形もとりどりの、うれしい、たのしい、大好きが詰まった葉っぱが繁っています。

最後はみんなで記念撮影。仮掛けされたタペストリーを眺める参加者の表情には、驚きと喜び、達成感がにじんでいるように見えました。

たのしいをいっしょに

二日間のアートキャンプを終えた後、多くのお父さん、お母さんから「子どもが他の子と一緒にうまくやってくれるか心配だったけど、自由にのびのびと普段はできないような作品づくりを楽しむことができた」という声をいただきました。

あれはだめ、これはだめと否定するのではなく、ゆるやかなルールの中で子どもたちの好奇心にうったえかけたこと。お父さんやお母さん、サポーターやスタッフが、いろんな形でワークショップに関わり、それぞれの視点で心地のいい距離感と子どもたちの「たのしい」を想いながら見守ってくれたこと。そして何より、講師の4人それぞれが考えを考えて、子どもたち一人ひとりの「たのしい」を探り、その「たのしい」を一緒にたのしもうとしてくれたこと。この人たちとこの空間は、自分たちを受け入れてくれる。一緒にたのしんでくれるという安心感が、子どもたちの個性をのびのびと引き出したのではないかと思います。

8月16日、みんなで作ったタペストリーは、ビッグ・アイのエントランスに掲げられました。そこには、大きな木を囲むように、じぶん色の葉っぱと円が、みんなの色と一緒に描かれています。色あざやかな大きな作品の中にしっかりと自分の色が存在している。一人ひとりを大切に、そしてみんなと一緒にだからできた素敵な作品です。



水野さんの声は、心なしか緊張を含んでいる様子。殿さまの責任は重大なのです。

多めの水で溶いた絵の具にビー玉をつけて、キャンパスの上を転がします。思い思いに放った玉は、布の下の障害物に当たり、無軌道な線を描きます。色あざやかな線と飛沫が、水玉に覆われたキャンパスをより複雑な画面へと変えていきます。

ひとしきりビー玉を転がしたところで、一日目の創作は終了となりました。お待ちかねの夕食と花火を楽しんだ後、明日にそなえて今日はおやすみです。



Information

こちよいくつろぎの空間を

ビッグ・アイでは、快適な空間をご提供するために、様々な取り組みをしておりますが、このたび、前号でもご案内いたしましたアロマを皆さまにお楽しみいただけるよう、2階と3階のエレベーターホールに中世ヨーロッパと海辺をイメージしたアロマコーナーを新たに設置いたしました。

ぜひとも、お越しいただき皆様のご意見をお聞かせください。



問合せ ビッグ・アイ フロント
TEL 072-290-0900 FAX 072-290-0920
Eメール front@big-i.jp



2階 かわいくエレガントに



3階 吹きぬける海からの風

Program

レストラン de 就労支援??

ビッグ・アイでは、宿泊・飲食サービス業における障がい者の職域拡大をめざして、レストラン『ぐらん・じゅ』を中核に、職場体験プログラムを提供しています。昨年7月のスタート以来、大きな反響をいただいております。お客さまへの接客業務等を通じて、参加した体験者からも「最初はどこまでやれるか不安でした。お客さまに『ありがとう』と言ってもらい、自信になりました」といった声もいただいております。

このプロジェクトを通じて、障がい者の方がサービスの受け手となるばかりでなく、担い手としても活躍いただける可能性を追求しています。皆さまも『ぐらん・じゅ』にお越しいただき、「ビッグ・アイならではの」サービスを体感してください。



誰もが食事を楽しめる
レストラン ぐらん・じゅ
7:00～21:00(ラストオーダー 20:30)
席数 50席(全席禁煙)

ご予約・お問合せ
国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)1階
TEL&FAX 072-290-0917
大阪府堺市南区茶山台1-8-1

Present!

プレゼントクイズ

今号の特集記事からの出題です

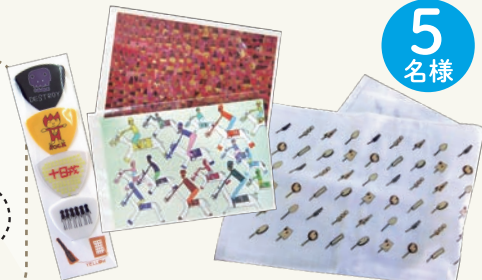
Q アートキャンプにおいて、みんなで作ったものは何だったのでしょうか?



ヒント: カタカナ6文字

YELLOW オリジナルグッズを セットで5名様にプレゼント!

5
名様



(ピックセット、ポストカード、泉州フェイスタオル)

■応募方法
クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかでご応募ください。
①氏名(ふりがな) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など
正解者の中から抽選で5名様に景品を発送させていただきます。当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。
※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

■応募締切
2015年10月31日(土)消印有効
■応募先
〒590-0115
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp

ご応募の際にお預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。



編集・発行 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)広報
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972

発行日 2015年9月30日

EVENT CALENDAR

情報保障等のアイコン表示

11 November



14日[土]・15日[日] 各日10:00～17:30

第13回 共に生きる障がい者展

▶場所:多目的ホール▶無料▶申込不要
▶問合せ ともいき係 072-290-0962

15日[日] 13:30～16:30

大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2015

▶出演:障がい者アーティスト9組(予定)
特別審査員 大西ユカリ
▶場所:多目的ホール▶無料▶申込不要▶定員:1,200名
▶問合せ コンテスト係 072-290-0962



ビッグ・アイ アートフェスティバル2015

問合せ アートフェスティバル係 072-290-0962

21日[土] 14:00～16:00

日英逐次通訳

アートセミナー

～国際的な視野でみる～ 独学のアーティストたち

▶出演:エドワード M. ゴメズ/秋元雄史
▶場所:中研修室▶無料
▶申込締切:10月18日(日)▶定員:50名(抽選)

22日[日]

ビッグ・アイ アートプロジェクト2015 表彰式・記念コンサート 岡本真夜 ～みんなの頑張るを応援する～

14:30～16:30
▶出演:岡本真夜▶場所:多目的ホール▶無料
▶申込締切:10月18日(日)▶定員:1,200名



エンタランスステージ だいでんがく 大田 崇

12:45～13:30
▶出演:特定非営利活動法人ACT.JT
▶場所:エンタランス▶無料▶申込不要

23日[月・祝] 13:30～16:00

ダンスステージ HALO ～踊りだす色～

▶出演:筑波技術大学 Soul Impression
近畿大学文学部芸術学科舞台芸術専攻24期卒業舞踊制作ゼミ
ダンスカンパニー コンドルズ
▶場所:多目的ホール▶無料
▶申込締切:10月18日(日)▶定員:1,200名

22日[日]・23日[月・祝] 両日公演

ワハハ本舗が贈る新作実験コメディ劇場 「結婚適応者じゃない2人」

22日…11:00～12:30/17:00～18:30
23日…11:00～12:30
▶作・演出:喰 始(たべ はじめ)
▶出演:大橋ひろえ 大窪みこえ
▶場所:大研修室▶無料
▶申込締切:10月18日(日)▶定員:各回80名(抽選)



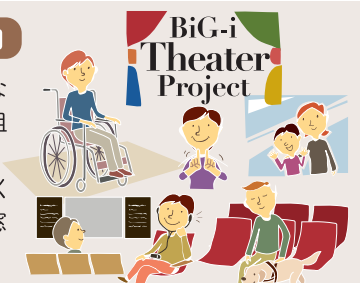
17日[火]～23日[月・祝] 各日10:00～17:00

ビッグ・アイ アートプロジェクト2015 入選作品展

▶バリアフリープラザほか▶無料▶申込不要
▶問合せ アートプロジェクト係 072-290-0962

鑑賞サポートご相談窓口

手話通訳や要約筆記、音声ガイドなど、さまざまな鑑賞サポートに取り組むビッグ・アイ。このたび、誰もが楽しめる舞台づくりや鑑賞サポートに対するご相談窓口を開設いたしました。



ご質問・ご相談 ビッグ・アイ「鑑賞サポート」係 Eメール theater@big-i.jp